

2008年11月7日

**2009年3月期第2四半期決算の概要
(2008年7月～9月)**

**東レ株式会社
専務取締役 齊藤典彦**

. 2009年3月期第2四半期決算の概要	
2009年3月期第2四半期決算の概要	(P3)
事業セグメント別売上高・営業利益	(P4-12)
事業セグメント別営業利益 1Q vs 2Q比較	(P13)
事業セグメント別2Q営業利益 1Q時見通し vs 実績比較	(P14)
2009年3月期第2四半期累計業績	(P15)
2009年3月期第2四半期累計セグメント別業績	(P16)
営業利益増減要因分析	(P17)
主要子会社収益状況	(P18)
. 2009年3月期通期連結業績見通し	
2009年3月期通期連結業績見通し	(P20)
事業セグメント別売上高・営業利益見通し	(P21)
設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し	(P22)
< 参考資料 > 最近のトピックス	(P24-29)

(注) 1Q時見通しとは2009年3月期第1四半期決算発表時(8月6日)の見通しです。



**. 2009年3月期第2四半期決算の概要
(2008年7月～9月)**



2009年3月期第2四半期決算の概要

単位:億円

単位:億円

	08年3月期 第2四半期 (7~9月)	09年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減
売上高	4,165	4,135	-31 (-0.7%)
売上原価	3,347	3,370	+23 (+0.7%)
売上総利益	819	765	-54 (-6.6%)
(売上高総利益率)	19.7%	18.5%	-1.2 ポイント
販売費及び 一般管理費	574	594	+21 (+3.6%)
(売上高販管費比率)	13.8%	14.4%	+0.6 ポイント
営業利益	245	171	-74 (-30.3%)
(売上高営業利益率)	5.9%	4.1%	-1.8 ポイント
営業外収支	14	20	-6
経常利益	231	150	-81 (-34.9%)
特別損益	35	16	+19
税前利益	196	135	-61 (-31.4%)
四半期純利益	128	61	-67 (-52.1%)

	08年6月末	08年9月末	増減	08年3月末 <ご参考>
資産合計	16,653	16,902	+248	16,982
負債合計	10,511	10,753	+242	10,561
純資産合計	6,142	6,148	+6	6,422
有利子負債残高*	6,228	6,500	+272	5,912

*08年6月末及び9月末はリース債務を含む

為替レート

<円/US\$>

(08/3 2Q) (09/3 2Q)

期中平均 : 117.9 107.7

期末 : 115.4 103.6

<円/ユーロ>

(08/3 2Q) (09/3 2Q)

期中平均 : 161.9 161.9

期末 : 163.4 149.1

原油価格

<US\$/バレル> (DUBAI FOB)

(08/3 2Q) (09/3 2Q)

期中平均 : 70.1 113.4

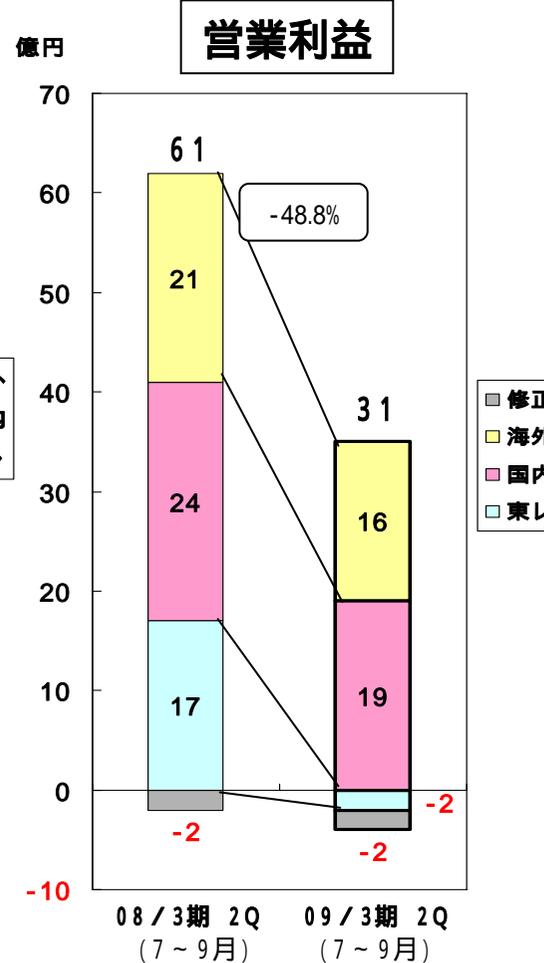
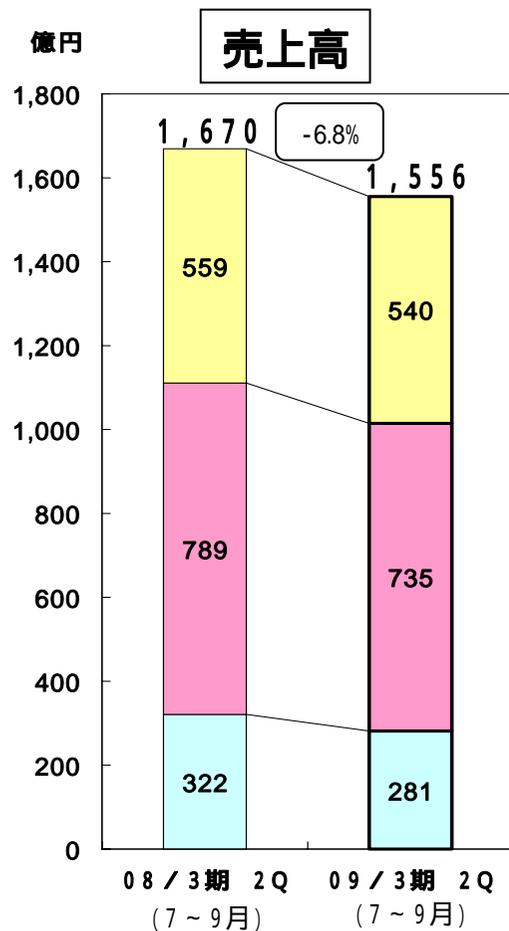
(注) 3月期決算会社は7~9月の業績、12月期決算会社は4~6月の業績を連結

事業セグメント別売上高・営業利益

単位: 億円

	売上高			営業利益		
	08年3月期 第2四半期 (7~9月)	09年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減	08年3月期 第2四半期 (7~9月)	09年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減
繊維	1,670	1,556	-114 (-6.8%)	61	31	-30 (-48.8%)
プラスチック・ケミカル	1,013	1,126	+113 (+11.1%)	48	47	-1 (-2.6%)
情報通信材料・機器	723	688	-35 (-4.8%)	66	60	-6 (-9.1%)
炭素繊維複合材料	206	184	-22 (-10.5%)	44	23	-21 (-48.8%)
環境・エンジニアリング	382	417	+35 (+9.2%)	14	10	-4 (-29.0%)
ライフサイエンスその他	171	162	-8 (-4.9%)	16	6	-9 (-60.0%)
(内医薬・医療材)	121	117	-4 (-3.5%)	7	1	-8 (-)
計	4,165	4,135	-31 (-0.7%)	248	177	-72 (-28.9%)
消去又は全社				3	6	-3
連結	4,165	4,135	-31 (-0.7%)	245	171	-74 (-30.3%)

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

産業用途は概ね堅調に推移したものの、衣料用途は低調に推移。また、急速に進む原燃料価格上昇によるコストアップに対し、価格転嫁や高付加価値品へのシフトを進めたが、当四半期ではカバーしきれず、前年同期にあったユニフォーム特需が無くなった影響もあり、減収減益。

国内子会社

国内需要不振の影響を受けた商事子会社が低調に推移したことを主因に、減収減益。

海外子会社

欧州子会社の人工皮革事業が好調に推移したものの、衣料用テキスタイルの販売量が落ち込み、減収。また、中国子会社が、現地通貨高、原燃料費や労務費等のコストアップの影響を受けたこと等により、海外子会社全体で減益。

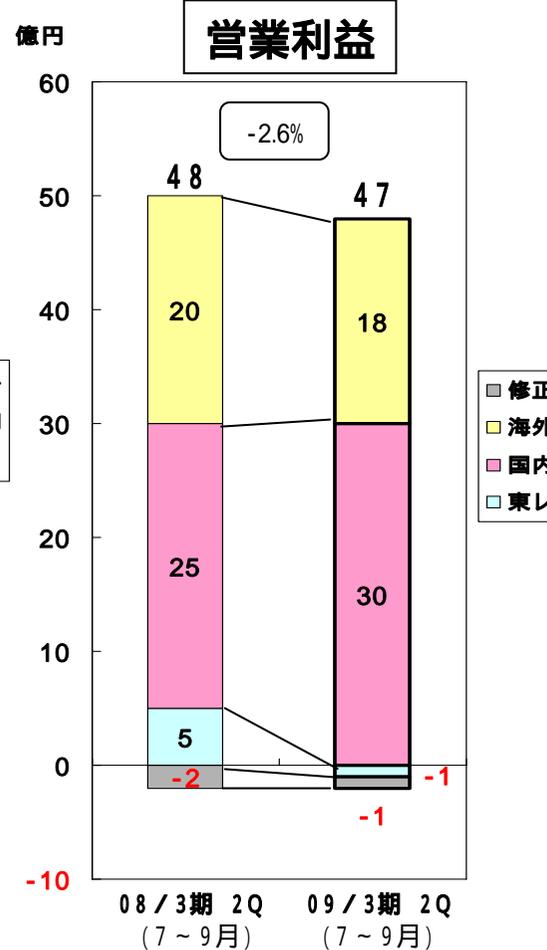
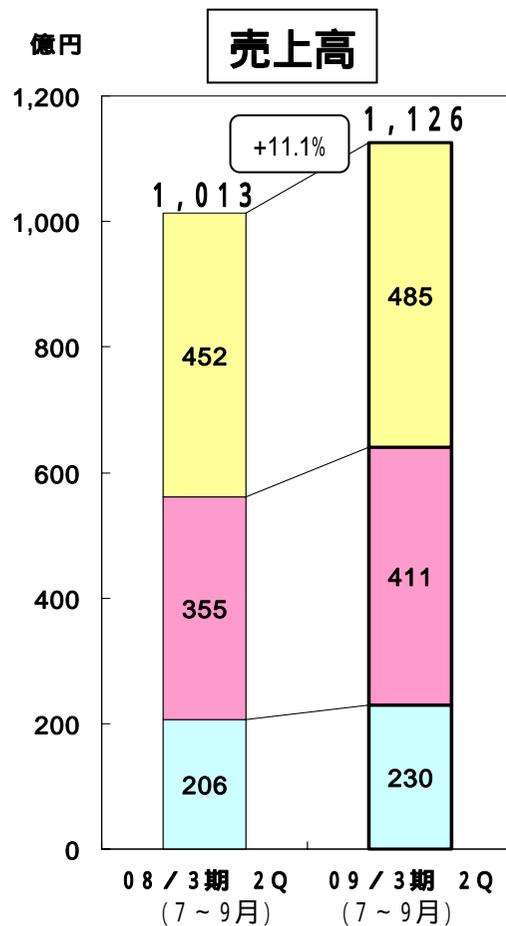
< 主要関係会社 >

国内：東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア：PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米：ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂事業は自動車用途が堅調に推移し、フィルム事業も太陽電池用途の売上が拡大したこと等により、増収。原燃料価格高騰等によるコストアップを価格転嫁、高付加価値品へのシフトやコストダウン等でカバーしきれず、減益。

国内子会社

商事子会社が順調に売上を拡大したほか、ファインケミカル子会社も堅調に推移したこと等により、増収増益。

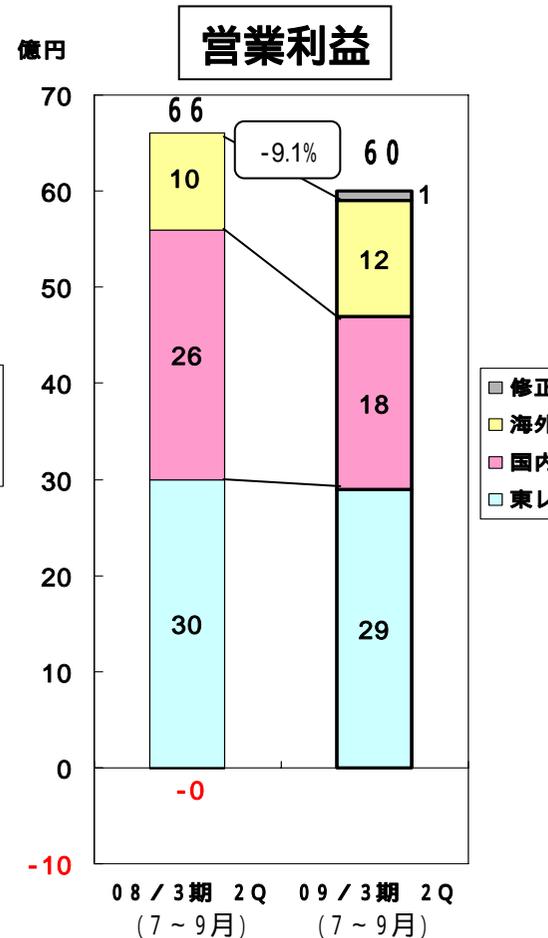
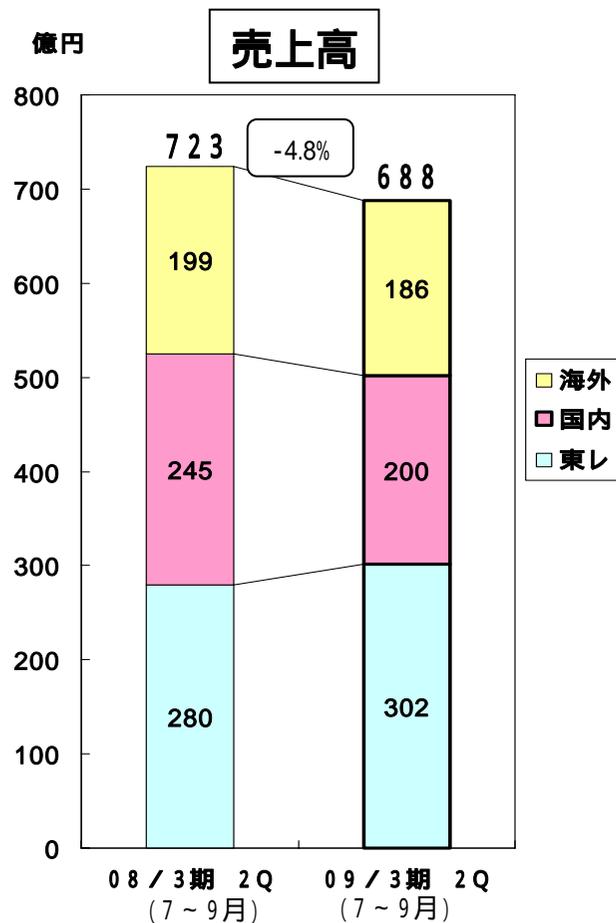
海外子会社

ABS樹脂の増設を行ったマレーシア樹脂子会社に加え、マレーシアのフィルム子会社も拡販を進めたこと等により増収。一方、欧州のフィルム子会社が現地通貨高、原燃料価格高騰の影響を受けたこと等により、減益。

<主要関係会社>

国内：東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他
海外：TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

事業セグメント別業績(情報通信材料・機器)



特記事項

東レ

液晶カラーフィルターや半導体コーティング材料が好調に推移し、データストレージ用磁材フィルムやPDP材料が数量を伸ばしたこと等により増収も、電子部品用フィルムの需要が鈍化したことに加え、回路材料や印写材料も低調に推移したこと等により、営業利益はほぼ横ばい。

国内子会社

IT関連機器子会社の液晶カラーフィルター製造装置の売上減少を主因に減収減益。

海外子会社

韓国のフィルム子会社が磁気材料の売上を減少させたこと等により減収。一方、同じく韓国の回路材料子会社がコストダウンを進めたことを主因に増益。

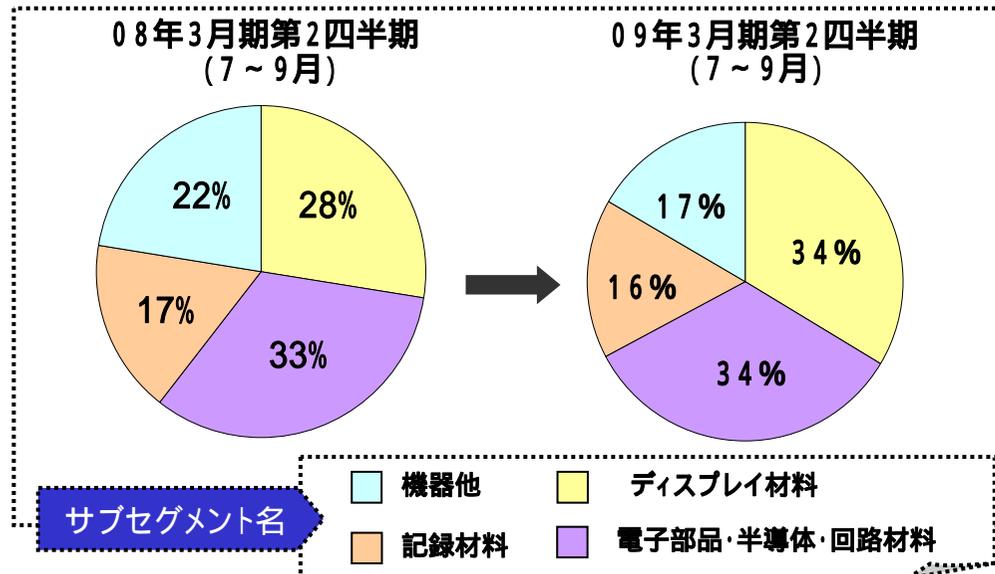
<主要関係会社>

国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国) 他

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高比率】



【サブセグメント別売上高推移】

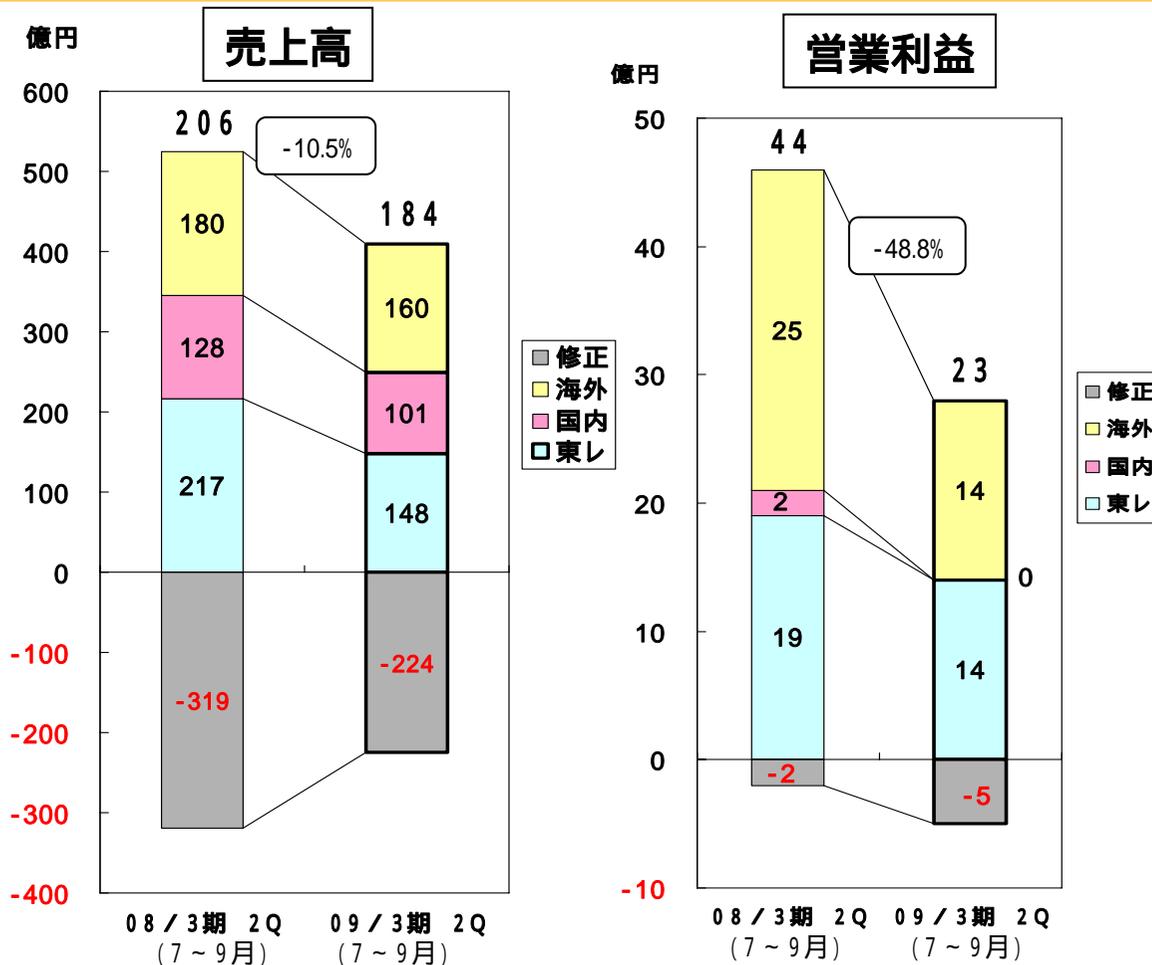
(単位: 億円)

サブセグメント	08年3月期第2四半期 (7~9月)	09年3月期第2四半期 (7~9月)	増減率
ディスプレイ材料	200	232	+16%
電子部品・半導体・回路材料	238	231	-3%
記録材料	123	111	-10%
機器他	162	115	-29%
情報通信材料・機器セグメント合計	723	688	-5%

サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon)・受容紙用フィルム、印写材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

事業セグメント別業績(炭素繊維複合材料)

本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。



特記事項

東レ

産業用途では機械部品用コンポジット製品等が拡大。一方、スポーツ用途の需要が軟調に推移したことに加え、ボーイング社向けの引き取り遅れや前年同期にあった機械輸出がなくなったこともあり、減収。円高や原燃料価格高騰の影響に加え、新規生産設備の減価償却費の増加等もあり、減益。

国内子会社

円高の影響を受け、減収減益。

海外子会社

欧州子会社が高機能炭素繊維の売上げを伸ばしたが、ボーイング社向けの引き取り遅れに加え、円高の影響や欧州の新規生産設備の減価償却費の増加等もあり、減収減益。

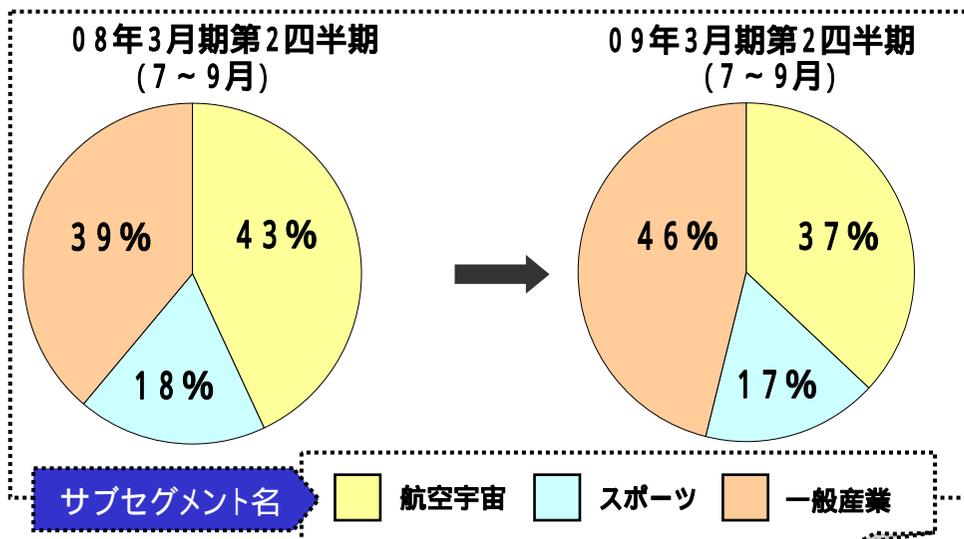
< 主要子会社 >

国内: 東レインターナショナル

海外: SOFICAR(フランス)、CFA(アメリカ)、TCA(アメリカ)

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【サブセグメント別売上高比率】



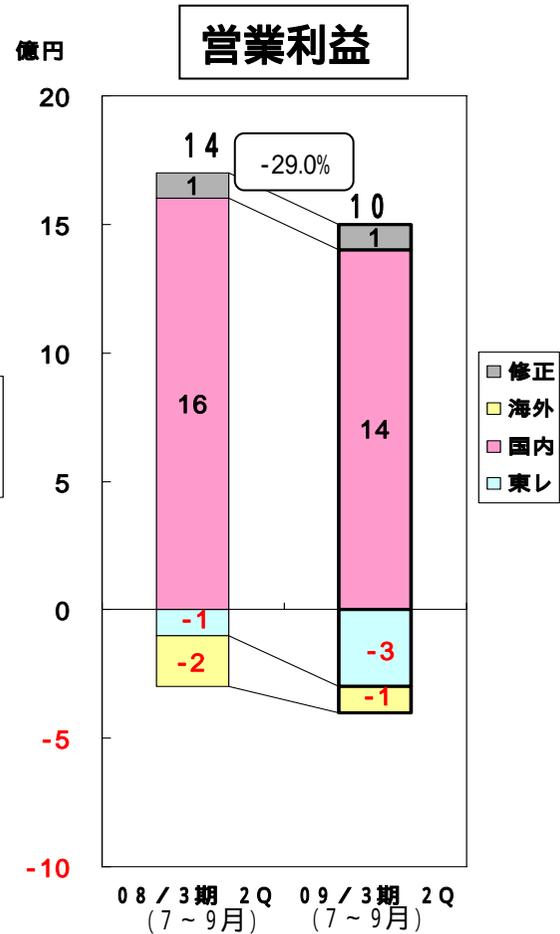
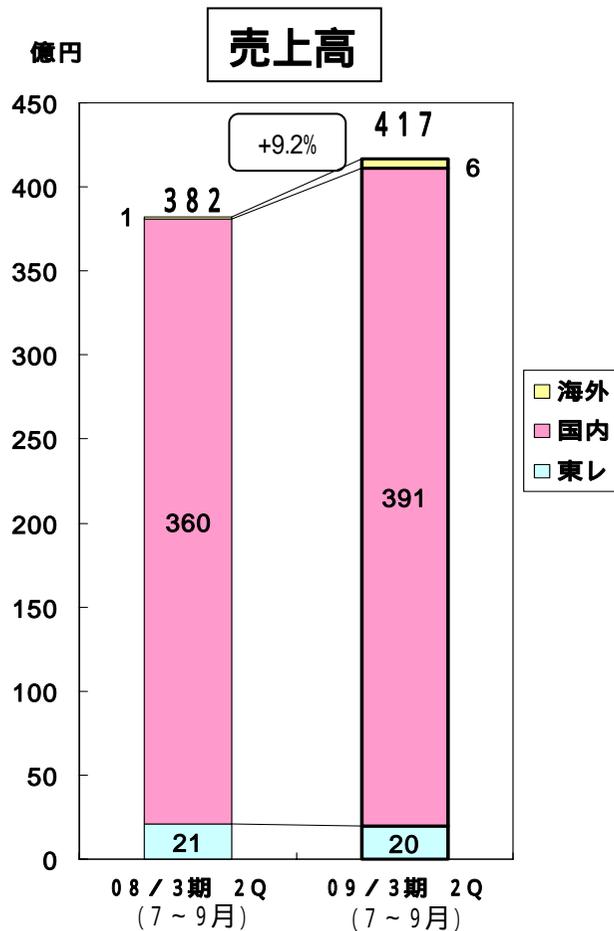
サブセグメント名	用途
航空宇宙	民間航空機 人工衛星 他
スポーツ	ゴルフ 自転車 釣り竿 ラケット 他
一般産業	圧力容器・タンク 自動車 船舶 風車 パソコン用筐体 土木建築 機械部品 燃料電池関連部材 他

【サブセグメント別売上高推移】

(単位: 億円)

サブセグメント	08年3月期 第2四半期 (7~9月)	09年3月期 第2四半期 (7~9月)	増減率
航空宇宙	89	68	-24%
スポーツ	36	31	-16%
一般産業	80	84	+5%
炭素繊維複合材料 セグメント合計	206	184	-11%

事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング)



特記事項

東レ

RO膜やMBRが欧米・中東を中心に順調に受注を拡大し、また、家庭用浄水器も好調に推移するも円高の影響等に加え、事業拡大に伴う費用増もあり、減収減益。

国内子会社

商事子会社の機械輸出が好調に推移し、エンジニアリング子会社の大型案件完工等もあり、増収。一方、水処理エンジニアリング子会社の採算悪化や建設子会社の完成案件が少なかったことによる影響もあり、減益。

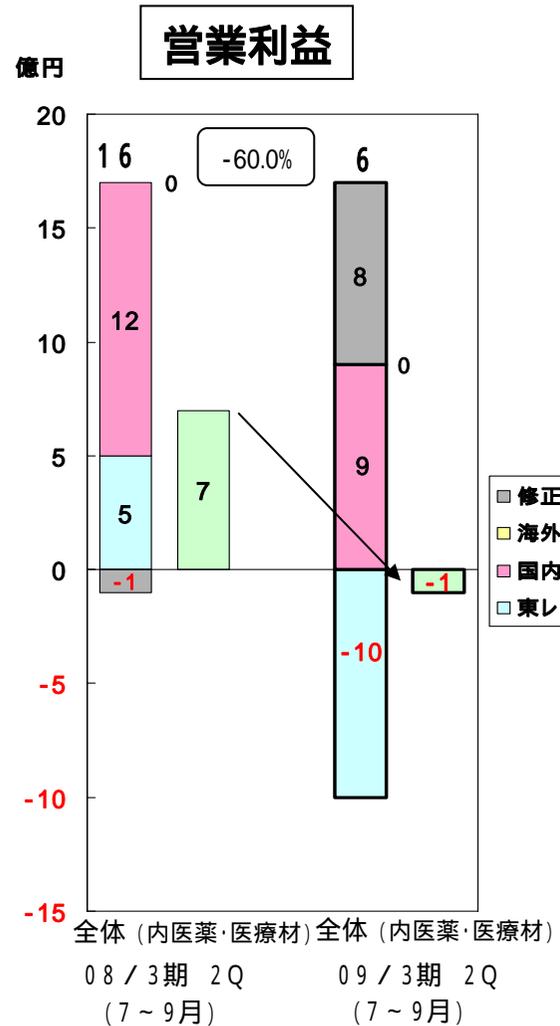
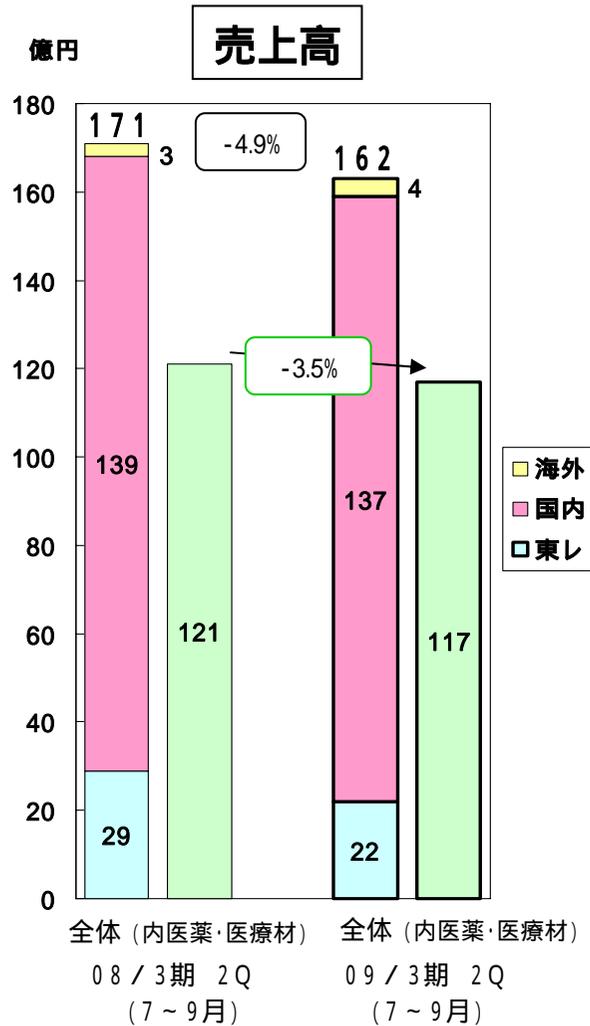
海外子会社

米国の水処理関連子会社が順調に売上げを伸ばしたことにより、増収、利益改善。

<主要子会社>

国内：東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

事業セグメント別業績(ライフサイエンスその他)



特記事項

医薬・医療材

人工腎臓が販売量を伸ばしたものの、医薬品は競争激化の影響を受け低調に推移。薬価・償還価格改定による販売価格の下落やライセンス収入の減少の影響もあり、医薬・医療材事業全体では、減収減益。

その他

その他子会社は、分析サービス子会社の半導体分野での受注減等により、減収減益。

< 主要関係会社 >

国内：東レメディカル、東レリサーチセンター、東レインタープライズ 他

事業セグメント別営業利益 1Q vs 2Q 比較

億円

事業セグメント	営業利益 1Q 2Q ()内差異	増減益要因
繊維	31 31 (±0)	<ul style="list-style-type: none"> 国内衣料用途の需要不振。 原燃料価格高騰に対し、価格転嫁や高付加価値品へのシフトを推進。 大手SPA向け縫製品の出荷が増加。
プラスチック ・ケミカル	35 47 (+12)	<ul style="list-style-type: none"> 原燃料価格高騰に対し、価格転嫁と高付加価値品へのシフトを推進。 需要が拡大する太陽電池用フィルムの拡販。 米国子会社の食品包装用フィルムの拡販。
情報通信材料 ・機器	36 60 (+24)	<ul style="list-style-type: none"> 液晶カラーフィルター製造装置を中心にIT関連機器を拡販。 韓国子会社が4月～6月のFPD生産拡大を背景にFPD関連材料を拡販。
炭素繊維 複合材料	33 23 (-10)	<ul style="list-style-type: none"> ボーイング787のスケジュール遅延による航空機用途減。 原燃料高騰の影響。
環境・エンジニアリング	7 10 (+17)	<ul style="list-style-type: none"> 2Qにエンジニアリング子会社の大型案件の完工。 RO膜の拡販。
ライフサイエンス その他	1 6 (+5)	<ul style="list-style-type: none"> 人工腎臓の拡販。 ライセンス収入の増加。
消去または全社	3 6 (-9)	
連結	132 171 (+39)	

事業セグメント別2Q営業利益 1Q時見通しvs実績比較

億円

事業セグメント	2Q営業利益 1Q時見通し 実績 ()内差異	増減益要因
繊維	19 31 (+12)	<ul style="list-style-type: none"> • 価格転嫁と高付加価値品へのシフトを推進。 • 費用削減、生産効率改善によるコスト削減を推進。
プラスチック ・ケミカル	30 47 (+17)	<ul style="list-style-type: none"> • 樹脂を中心に価格転嫁と高付加価値品へのシフトを推進。 • 国内商事子会社の中国向け化成品並びにファインケミカル子会社の食品香料が好調に推移。
情報通信材料 ・機器	44 60 (+16)	<ul style="list-style-type: none"> • IT関連フィルムを中心に価格転嫁と高付加価値品へのシフトを推進。 • 国内エンジニアリング子会社で費用削減を推進。
炭素繊維 複合材料	17 23 (+6)	<ul style="list-style-type: none"> • 高付加価値品拡販によるプロダクトミックスの改善。 • 費用削減。
環境・エンジニアリング	7 10 (+2)	<ul style="list-style-type: none"> • 水処理事業で、費用削減、生産効率改善によるコスト削減を推進。 • 国内エンジニアリング子会社、建設子会社による費用削減。
ライフサイエンス その他	9 6 (-2)	<ul style="list-style-type: none"> • 医薬品が競争激化の影響を受けて低調に推移。
消去または全社	8 6 (+2)	
連結	118 171 (+53)	

(注) 1Q時見通しとは2009年3月期第1四半期決算発表時(8月6日)の見通しです。

2009年3月期第2四半期累計業績

億円

	08年3月期 第2四半期累計 (4~9月) 実績	09年3月期 第2四半期累計 (4~9月) 実績	増減	09年3月期 第2四半期累計 (4~9月) 1Q時見通し	1Q時見通し との差異
売上高	8,023	8,009	-15 (-0.2%)	7,900	+109
売上原価	6,427	6,519	+92 (+1.4%)		
売上総利益	1,596	1,489	-107 (-6.7%)		
(売上高総利益率)	19.9%	18.6%	-1.3 ポイント		
販売費及び 一般管理費	1,156	1,186	+31 (+2.7%)		
(売上高販管費比率)	14.4%	14.8%	+0.4 ポイント		
営業利益	440	303	-137 (-31.2%)	250	+53
(売上高営業利益率)	5.5%	3.8%	-1.7 ポイント		
営業外収支	22	28	-6		
経常利益	419	275	-144 (-34.3%)	220	+55
特別損益	30	48	-17		
税前利益	389	227	-161 (-41.5%)		
四半期純利益	230	105	-125 (-54.2%)	70	+35

為替レート				原油価格				
<円/US\$>		<円/ユーロ>		<US\$/バレル> (DUBAI FOB)				
(08/3 2Q累計)	(09/3 2Q累計)	(08/3 2Q累計)	(09/3 2Q累計)	(08/3 2Q累計)	(09/3 2Q累計)			
期中平均	: 119.3	106.1	期中平均	: 162.3	162.7	期中平均	: 67.4	115.1
期末	: 115.4	103.6	期末	: 163.4	149.1			

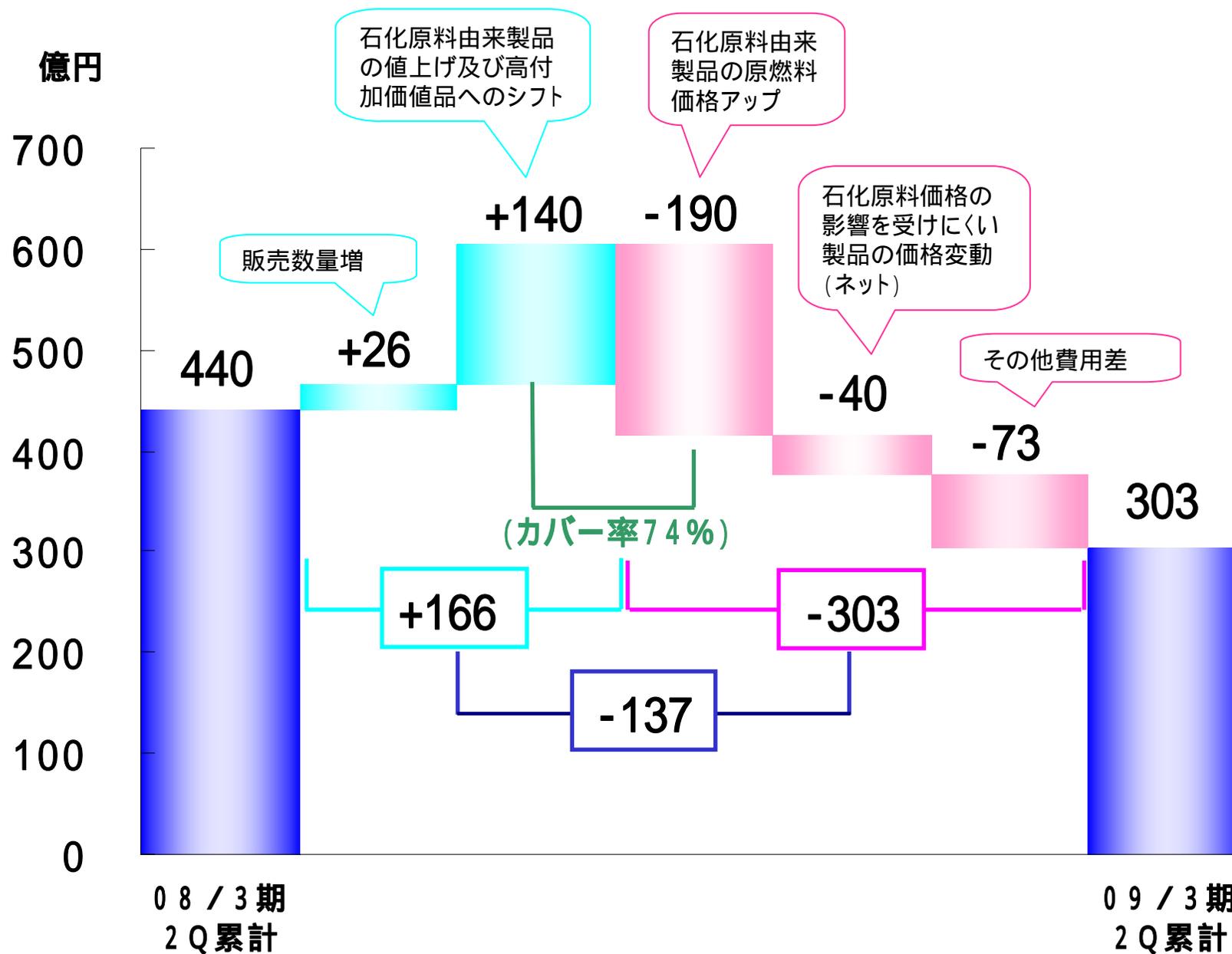
(注1) 3月期決算会社は4~9月の業績、12月期決算会社は1~6月の業績を連結
(注2) 1Q時見通しとは2009年3月期第1四半期決算発表時(8月6日)の見通しです。

2009年3月期第2四半期累計セグメント別業績

億円

	売上高			営業利益		
	08年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	09年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減	08年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	09年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
繊維	3,209	3,005	-204 (-6.4%)	100	62	-38 (-37.7%)
プラスチック・ケミカル	1,994	2,194	+200 (+10.0%)	90	82	-7 (-8.4%)
情報通信材料・機器	1,387	1,312	-76 (-5.5%)	128	96	-32 (-24.9%)
炭素繊維複合材料	399	381	-18 (-4.5%)	82	56	-26 (-31.7%)
環境・エンジニアリング	711	804	+93 (+13.0%)	25	2	-22 (-90.3%)
ライセンスその他	323	313	-10 (-3.1%)	24	8	-17 (-69.1%)
(内医薬・医療材)	224	221	-2 (-1.1%)	8	7	-1 (-)
計	8,023	8,009	-15 (-0.2%)	448	306	-142 (-31.7%)
消去又は全社				8	3	+5
連結	8,023	8,009	-15 (-0.2%)	440	303	-137 (-31.2%)

営業利益増減要因分析



主要子会社収益状況

億円

	売上高			営業利益		
	08年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	09年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減	08年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	09年3月期 第2四半期累計 (4~9月)	増減
東レインターナショナル*1	2,102	2,046	-56	33	30	-3
東レエンジニアリング	546	432	-114	47	32	-15
東レ建設	203	228	+25	6	4	-3
東レフィルム加工	224	241	+16	19	11	-8
東レ・メディカル	173	179	+6	5	2	-3
TSI(韓国)	445	434	-11	27	22	-5
TPM(マレーシア)	293	368	+75	8	3	-5
在東南アジア・子会社 *2						
繊維	593	564	-30	9	10	+0
プラスチック・ケミカル	338	413	+75	9	8	-1
その他	40	50	+10	0	0	+0
計	972	1,027	+55	18	17	-1
在中国・子会社 *3						
繊維	411	404	-7	5	4	-9
プラスチック・ケミカル	232	239	+7	4	3	-0
その他	76	66	-10	5	4	-2
計	719	709	-10	14	2	-11
在外・フィルム子会社 *4						
プラスチック・ケミカル	444	454	+10	10	12	+2
情報通信材料・機器	219	196	-23	19	14	-5
計	663	649	-13	29	26	-3

*1: 東レインターナショナルは、08年4月1日付で東レアイリープと東レフィッシングを統合、上記は両社を含む数字

*2: ITS、ETX、ISTEM、ACTEM、CENTEX、Penfibre、PAB - G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

*3: TFNL、TSD、TAK/TAZ、TJQ、TPN、TCH、TSL、THK - G、TPHK/TPSZ、RKH/RKZ、TFH/TFZ 単純合計

*4: TSI(フィルム・電材)、Penfibre(フィルム)、TPA、TPEu、TFH/TFZ 単純合計

・2009年3月期通期連結業績見通し

2009年3月期通期連結業績見通し

単位：億円

	08年3月期 実績	09年3月期 1Q時見通し	09年3月期 今回見通し	対前年比増減
売上高	16,497	17,000	17,000	+503 (+3.1%)
営業利益	1,034	750	750	-284 (-27.5%)
経常利益	915	700	700	-215 (-23.5%)
当期純利益	481	300	300	-181 (-37.6%)

1株当たり 当期純利益	34.3円	21.4円	21.4円
1株当たり 配当金	10.0円	10.0円	10.0円
配当性向	29.1%	46.7%	46.7%

備考：為替レート的前提は、100円 / US\$ (10月以降)
原油価格見通しは、75US\$ / B(DUBAI FOB)(10月以降)

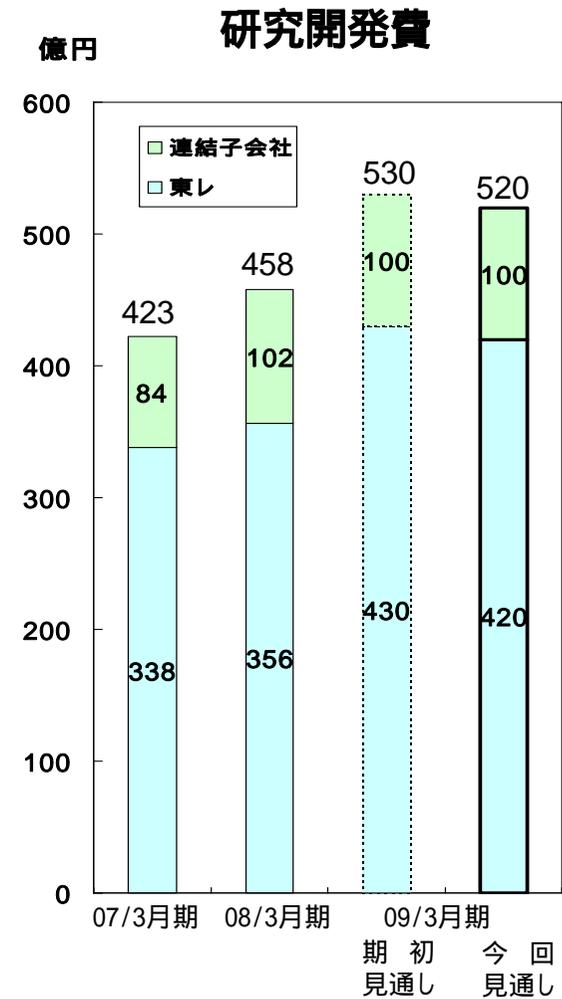
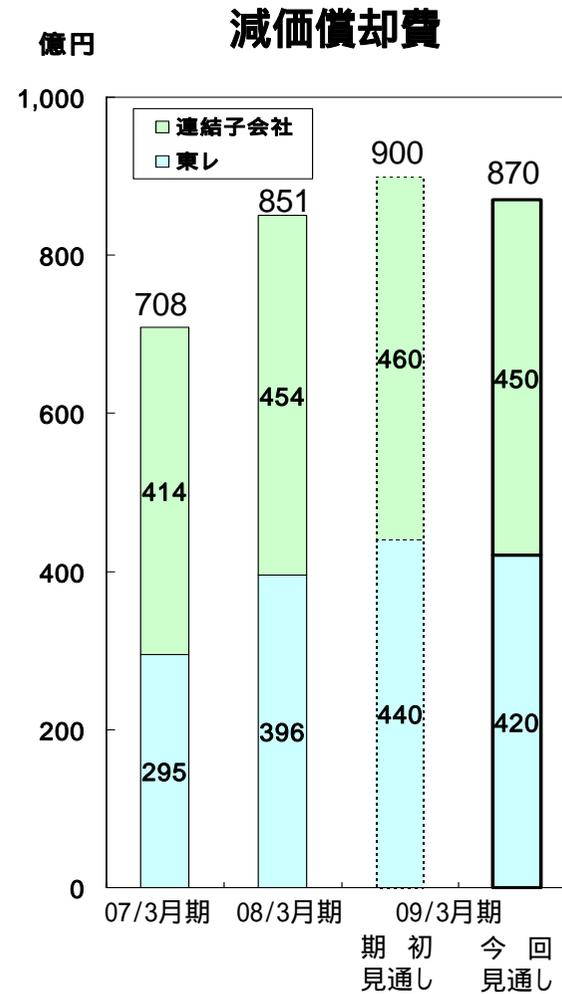
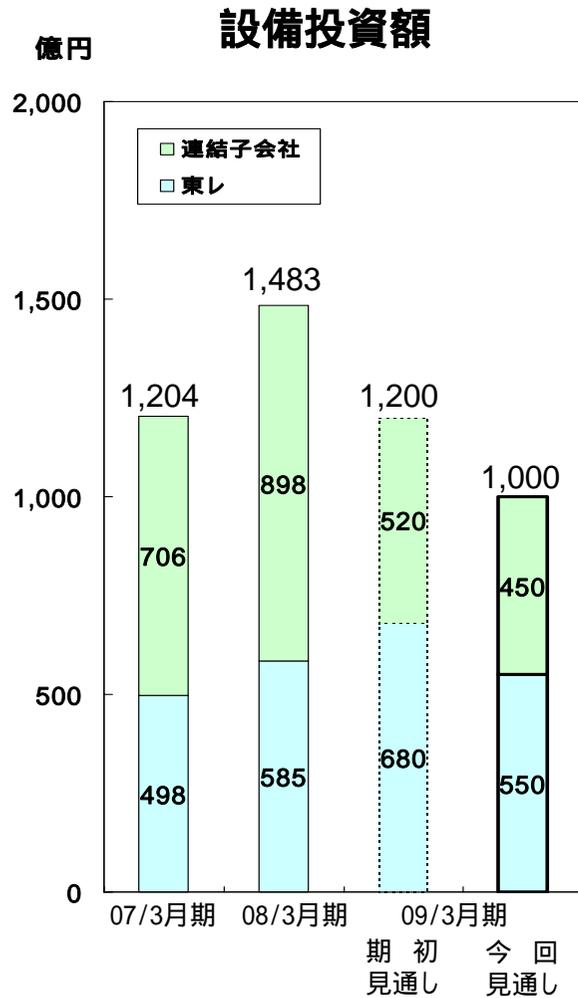
(注) 1Q時見通しとは2009年3月期第1四半期決算発表時(8月6日)の見通しです。

事業セグメント別売上高・営業利益見通し

単位: 億円

	売上高			営業利益		
	08年 3月期	09年 3月期	増減 (%)	08年 3月期	09年 3月期	増減 (%)
繊維	6,373	6,200	-173 (-2.7%)	214	120	-94 (-43.8%)
プラスチック・ケミカル	4,040	4,500	+460 (+11.4%)	207	170	-37 (-17.9%)
情報通信材料・機器	2,837	2,800	-37 (-1.3%)	298	230	-68 (-22.7%)
炭素繊維複合材料	836	900	+64 (+7.7%)	181	140	-41 (-22.6%)
環境・エンジニアリング	1,732	1,950	+218 (+12.6%)	98	70	-28 (-28.2%)
ライセンスその他	678	650	-28 (-4.1%)	63	40	-23 (-36.5%)
(内医薬・医療材)	484	480	-4 (-0.7%)	28	20	-8 (-28.1%)
計	16,497	17,000	+503 (+3.1%)	1,060	770	-290 (-27.3%)
消去又は全社				25	20	+5
連結	16,497	17,000	+503 (+3.1%)	1,034	750	-284 (-27.5%)

設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し



< 参考資料 > 最近のトピックス

自動車向け技術開発拠点「オートモーティブセンター」を開所

名古屋事業場に自動車向け技術開発拠点「オートモーティブセンター（AMC）」を開所。AMCの機能をフルに活用し、自動車産業の中長期的な革新に沿って、先端材料と先端技術の開発を進め、自動車産業向けの新たな需要の創出を目指す。

オートモーティブセンター（AMC）

- ・お客様の初期設計・構想段階から参画、ターゲットを共有化した共同開発を実行。
- ・東レグループが保有する先端材料と加工技術や製品設計支援などの技術資源を融合したソリューションを提案。



自動車産業の緊急課題である地球環境問題解決に貢献するため、炭素繊維複合材料や樹脂を中核とした軽量化対応技術や、電気自動車等の次世代パワートレイン用部材等の開発を推進

東レグループの自動車産業向けの事業規模：

2007年度実績：約1,400億円

2015年近傍：3,500億円まで拡大する計画

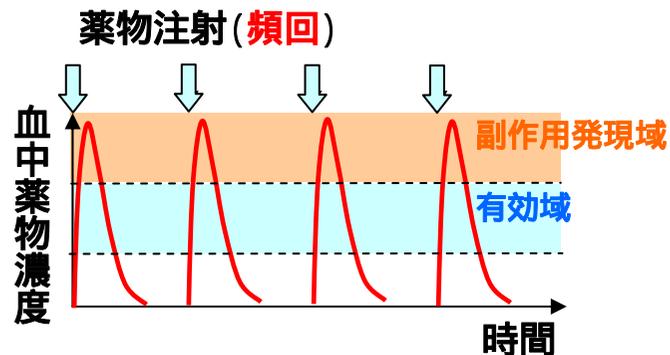
ナノ粒子を用いた革新ドラッグデリバリーシステム技術を開発

バイオ医薬品を生体内で長期にわたって徐放できる革新ドラッグデリバリーシステム(DDS)の基本技術を開発。本技術により、バイオ医薬品の注射回数を大幅に減らせる他、治療効果の向上や副作用の低減などが期待される。

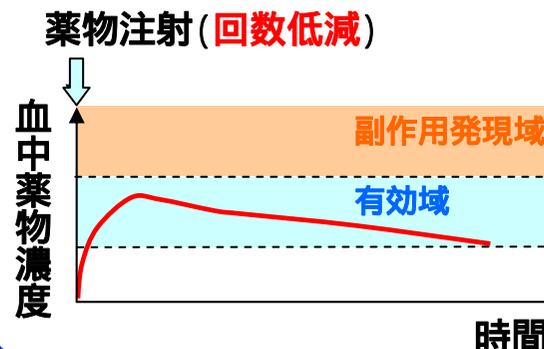
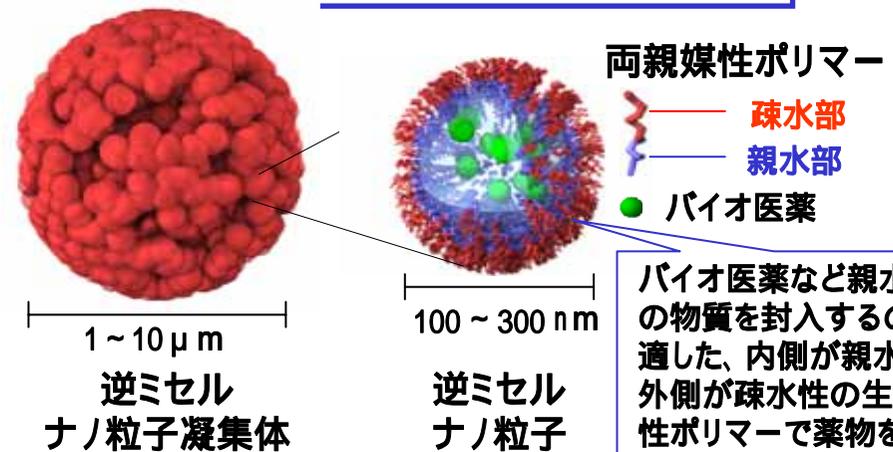
バイオ医薬品の課題

インスリンやインターフェロンなど
バイオテクノロジーで創出された医薬品

一般的に高い治療効果を示すが、
安定性が低く、消化管から吸収され
にくいいため、その多くは治療効果を
持続させるために何度も注射投与
する必要がある(患者のQOL低下)。



今回開発した革新DDS技術



期待される効果

- ・注射回数の低減
- ・治療効果の向上
- ・副作用の低減

患者のQOL向上

今後、バイオ医薬品メーカーなどに共同開発を呼びかけ、早期実用化を目指す。

アラビア湾沿岸の海水淡水化プラントで相次いで逆浸透膜を受注

海水淡水化用の逆浸透 (RO) 膜事業で、アラビア湾 (ペルシア湾) 沿岸の4箇所の海水淡水化プラント向けに、相次いでRO膜を受注。合計造水量は33.2万m³/日で、いずれも本年度以降の稼働開始予定。

アラビア湾沿岸は、高濃度の海水、35℃以上の高温、高濁質の内陸海水等の条件により、海水淡水化の技術としては、より難易度が高く、これまでRO法の採用が極めて少ない地域。

東レはこれらの苛酷な海水域のサウジアラビアのアラビア湾側やUAEの海水淡水化プラントにRO膜を納入しており、この実績を買われて今回の連続受注となった。

今回の受注案件(カッコ内は国名、造水量、稼働予定時期)

フジャイラII海水淡水化プラント

(アラブ首長国連邦、13.6万m³/日、2009年稼働予定)

シュウェーク海水淡水化プラント

(クウェート、13.6万m³/日、2010年稼働予定)

パール海水淡水化プラント

(カタール、3.5万m³/日、2008年稼働予定)

クアルン・アラム海水淡水化プラント

(オマーン、2.5万m³/日、2008年稼働予定)

合計造水量: 33.2万m³/日



東レのRO膜の累積出荷量は、造水量換算で14百万トン/日(60百万人の飲料水に相当)を超えています。

Dow Jones Sustainability World Index に2年連続で採用

世界の代表的なSRI株価指数であるDow Jones Sustainability World Index (DJSI World) の構成銘柄として2年連続で採用。DJSI World 2008/2009 には、世界で320社が採用され、東レが区分されている化学業種では、世界で9社が採用になり、昨年度に引き続き、日本では東レが唯一採用された。



**Dow Jones
Sustainability Indexes**
Member 2008/09

DJSI World : 米国の株価指数算出会社のDow Jones Indexes とスイスのSRI調査運用会社であるSAM (Sustainable Asset Management) Group が提携して開発した株式指標。世界の企業2,500社を対象に、「経済」「環境」「社会」の3つの側面から企業を評価し、業種毎に上位10%の企業を採用するもの。

東レが採用されているその他の主要な社会的責任投資株価指数



モーニングスター社会的責任投資株価指数
Morningstar Socially Responsible Investment Index

モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS - SRI)



KLD Global Climate 100
INDEX

KLD Global Climate 100 Index (GC 100)

炭素繊維複合材料の自動車プラットフォームを10分で成形

- スチール対比50%軽量化、1.5倍以上の衝突安全性を実証 -

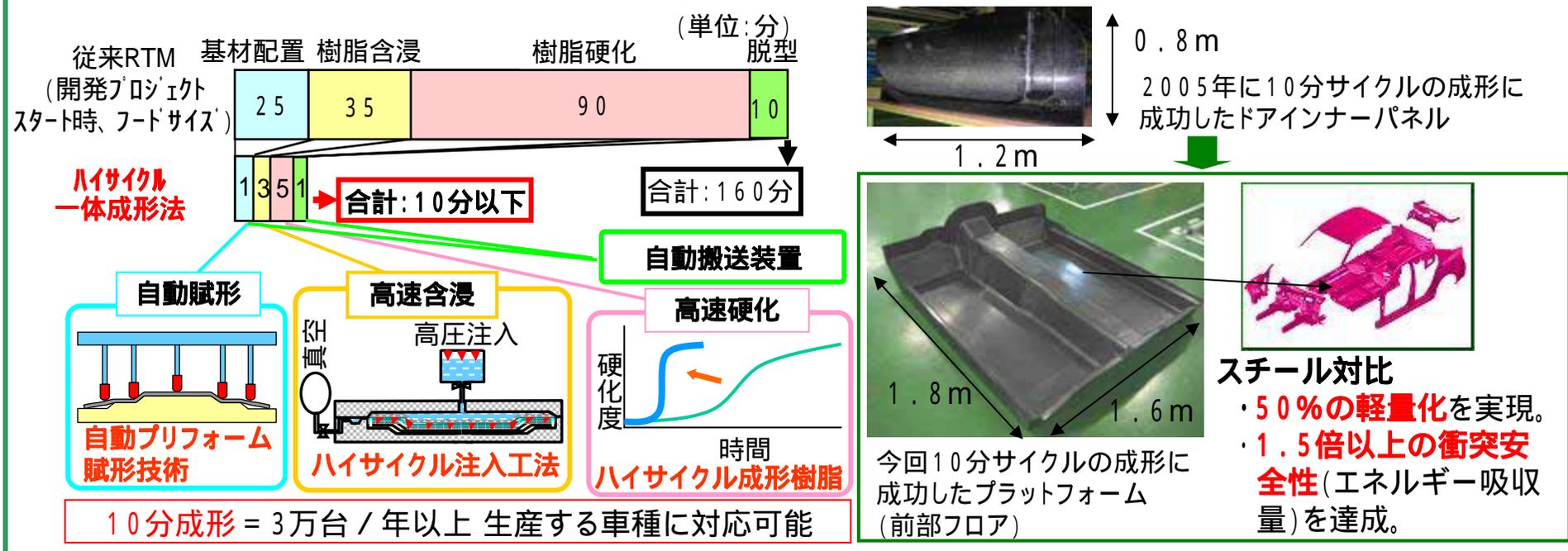
TORAY

Innovation by Chemistry

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託事業である「省エネルギー技術開発プログラム『自動車軽量化炭素繊維強化複合材料の研究開発』」において、このたび炭素繊維複合材料(CFRP)を用いて大型・複雑構造を持つ自動車プラットフォーム(車台)の前部フロアを、10分以内に成形することに成功。従来のスチールに対して50%の軽量化を実現するとともに、1.5倍以上の衝突安全性(エネルギー吸収量)を達成。

CFRPは、軽量化と安全性が求められる次世代の**自動車構造材料**として注目されているが、**成形時間の短縮**はCFRPの**量産性向上とコストダウン**に直結する重要な課題

「ハイサイクル一体成形技術」による成形時間の短縮



今後、自動車・航空機向け総合技術開発拠点「A & Aセンター(Automotive & Aircraft Center)」において、本技術の実用化開発を推進。

国連協会ニューヨーク本部「2008年ヒューマニタリオン賞」を受賞

当社の環境配慮型事業活動ならびにCSR活動が気候変動や社会の持続的成長に貢献していると評価され、国連協会ニューヨーク本部から「2008年ヒューマニタリオン賞」を受賞。

国連協会ニューヨーク本部「ヒューマニタリオン賞」

2000年国連ミレニアム・サミットで採択されたミレニアム・ゴール (Millennium Development Goals; 21世紀の国際社会の8つのゴール) から、毎年1つのテーマを選び、その分野で大きな貢献が認められる企業・個人・団体へ授与。過去にはユニセフやGE基金などが受賞。

本年のテーマは「環境・気候変動」で、環境問題全般への取り組みが対象となり、当社の他、潘基文 (パン・ギムン) 国連事務総長、オラフル・ラグナル・グリムソン アイスランド共和国大統領が受賞。

当社受賞経緯

当社の環境配慮型事業活動 (水処理・造水事業の展開、炭素繊維による温室効果ガス削減への貢献等) ならびにCSR活動 (省エネ、職場改善等) が気候変動や社会の持続的成長に貢献していると評価された。



炭素繊維



水処理プラントに使用されるRO膜



©2008 Michael Dames

今回当社とともに受賞された潘基文 (パン・ギムン) 国連事務総長と榊原社長

今後とも「chemistry(化学)の力」による先端材料を駆使し、持続可能な成長を可能とする循環型社会の構築に貢献してまいります。

本資料中の2009年3月期の業績見通し、及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。